

地域型DX活用ビジネスの構想と 社会実装のための基礎講座

受講費: **無料**

受講方法: ZOOM

本講座【後半・応用講座】

地域型DX活用ビジネスに興味のある方など
どなたでも参加可能

本プログラムは、北海道の特性（産業・経済・社会の動向）に関する理解に基づき、地域の特性を活かした地域型DX活用ビジネス（デジタル技術を理解して、ビジネスの現場においてデジタル技術の導入を行う全体設計ができる人財＝“ビジネスアーキテクト”）の育成を目的としております。

本講座は、2022年8月以降【前半（基盤講座）7回】、【後半（応用講座）6回、（ワークショップ）2回】の合計15回で開催致します。以下の通り、【後半（応用講座）6回、（ワークショップ）】のご案内を申し上げます。

地域型DX活用ビジネスに興味のある方など、どなたでも参加可能です。1回だけの参加も可能です。多くの方々のご参加をお待ちしております。

講座名	開催日時	講師名
【応用講座】 十勝農業を支える営農情報システム	10月26日（水）	十勝農業協同組合連合会農産部 小川 ひかり
スマート農畜産業	11月2日（水）	帯広畜産大学 名誉教授 佐藤 禎稔
“ものづくり”の課題	11月9日（水）	北見工業大学 名誉教授 有田 敏彦
“医療”の課題	11月22日（火）	北見赤十字病院 脳神経外科 医師 佐藤 広崇
北海道の産業と経済	11月24日（木）	株式会社NITドコモ 執行役員 北海道支社長 本 昌子
“観光”の課題	11月29日（火）	北海道大学大学院経済学研究院 教授 平本 健太
【ワークショップ】 地域型DX活用ビジネスの創出① 地域型DX活用ビジネスの創出②	2023年2月11日（土） 14:00-17:00 場所： 「EZOHUB SAPPORO」 （先着30名）	小樽商科大学ビジネススクール 准教授 藤原 健祐 北見工業大学工学部地域国際系長 教授 藤井 享

申込み・問い合わせ先:

申込みは右記二次元コードまたはURLにアクセス

URL <https://onl.bz/N29KQ5f>

又は以下担当者へ直接メールにてお願いします。

※参加ご希望の方は、開始前までに必ず参加登録の上、以下のZOOM URLより参加願います。

<https://zoom.us/j/92065648032?pwd=TUdZcGJaeVRIWmsxZ3hhbDZFlc2RVdz09>

ミーティングID: 920 6564 8032 パスコード: 441957

北見工業大学工学部地域国際系・藤井享宛

(北海道国立大学機構リカレント教育講座担当教員)

TEL: 090-8034-5406/ E-mail: toru-fujii@mail.kitami-it.ac.jp



主催：北海道国立大学機構教育イノベーションセンター
(小樽商科大学・帯広畜産大学・北見工業大学)

◎本講座

●開講日時 2022年10月26日(水)18時30分～20時

●講演テーマ 十勝農業を支える営農情報システム
－TAFシステムの機能と活用事例－

●講演者 小川 ひかり (十勝農協連)

●講演者略歴

学歴:帯広畜産大学 畜産科学課程 平成27年3月 卒業

職歴:十勝農業協同組合連合会 農産部 農産課 平成27年入会

●講演概要

十勝農業協同組合連合会が進める「十勝地域組合員総合支援システム(TAFシステム)」に係る取り組みや現場での活用事例について紹介します。

以前は手書きや用紙によって管理されていた農業現場のデータが、インターネットシステムによって集積され、今後はデータを活用して生産性の向上や地域全体での営農支援に繋がっていくと期待しています。

◎本講座

●開講日時 2022年11月2日(水)18時30分～20時

●講演テーマ スマート農畜産業
大規模畑作で期待されるロボットトラクタの現状と課題

●講演者 佐藤 禎稔 (帯広畜産大学 名誉教授)

●講演者略歴

帯広畜産大学環境農学研究部門農業環境工学分野(農作業システム工学)農学情報基盤センター長

所属学会:農業食料工学会、日本農作業学会、農業情報学会、日本ロボット学会、ASABE(アメリカ農業工学会)

●講演概要

本学と、ヤンマーとで共同研究を行っているロボットトラクタを北海道の畑作で利用できるようにするための研究事例の紹介。具体的には、バレイショ栽培でプラウ耕から収穫に至る一連のトラクタ作業を無人のロボットトラクタで作業できることを紹介する。(受講に関しては、農業に関する基本的な知識が求められる。)

◎本講座

●開講日時 2022年11月9日(水)18時30分～20時

●講演テーマ “ものづくり”の課題

●講演者 有田 敏彦（北見工業大学 名誉教授）

●講演者略歴

学歴:北見工業大学 機械工学科 昭和53年3月 卒業

職歴:昭和53年 福地農機(株) 製造部設計課 入社、昭和61年4月 同社製造部生産管理課生産管理係長 退職

昭和61年7月 (社)北見工業技術センター運営協会 機械金属課 入社、平成15年3月 機械金属課長 退職、

平成15年4月 北見工業大学 地域共同研究センター 助教授

平成19年6月 北見工業大学発ベンチャー企業設立 企業組合北見産学医協働センター

平成21年4月 北見工業大学 地域共同研究センター 教授、平成28年4月 知的財産センター長、

平成30年4月 北見工業大学 社会連携推進センター長、知的財産センター長、令和 3年3月 北見工業大学 退職

令和 3年4月 北見工業大学 工学部 特任教授

専門分野:機械設計、機械加工、建築設計、施工、産学官コーディネート

主な活動:地域連携、産学官連携に係る事業、再生可能エネルギー、冷熱エネルギー活用に関する活動

主な公職:ソーラー実行委員会 委員長(オホーツク新エネルギー開発推進機構 委員)、産業クラスターオホーツク 代表

●講演概要

「ものづくり」と言うことは簡単であるが、そこにある種々の技術や技能が集積していて初めて出来る事をわかっている人は、特に大学、公官庁にはほとんどいない。何かというと「商品開発をする事が大学の使命だ」と言っている根拠はないに等しい。これらのことが「ものづくり」に携わる企業等に対する評価の低さに繋がっているとわれ、技術者、技能者に対する敬意の念すらなおざりにされている。ものづくりは机上の空論ではなく、現実的な努力の集積である事を知ってもらい、だから面白く、やり甲斐のあるものである。こういった評価の低さが実は最大の課題である。本講義では、これらのことを事例とともに話したい。

◎本講座

●開講日時 2022年11月22日(火) 18時30分～20時

●講演テーマ “医療”の課題 ー医療過疎地におけるDXの活用 ー

●講演者 佐藤 広崇 (北見赤十字病院 脳神経外科 医師)

●講演者略歴

2014年旭川医科大学医学部医学科卒業、2016年旭川医科大学脳神経外科学講座入局、その後道内各地の病院で脳神経外科研修を行う。2020年脳神経外科専門医、2021年脳血管内治療専門医、2022年脳卒中専門医を取得。2021年からは北見赤十字病院(旭川医科大学脳神経外科学講座客員助教)にて勤務し、脳神経外科診療に携わりながら地域医療にDXを積極的に取り入れている。特に遠方の患者の通院負担を軽減する取り組みをDXの活用で実現しており、2021年度はDXを救急医療に活用する研究に対して、北海道開発協会より研究助成を受けている。以下主要な論文である。

① The health economic effects of an imaging technology-based telemedicine system for rural neuro-emergency patient care (DOI: <https://doi.org/10.3171/2022.3.FOCUS228>)

② Left Atrial Volume Index as a Predictor for Large-Vessel Occlusion in Cardiogenic Cerebral Infarction: A Single-Center Cohort Study (DOI:<https://doi.org/10.1016/j.wneu.2021.12.003>)

③ Endovascular coil embolization of proximal middle cerebral artery aneurysms has better outcomes than other middle cerebral artery aneurysms: A retrospective study (DOI: <https://doi.org/10.1177/1591019919896459>)

●講演概要

Digital Transformation (DX)は医療の分野でも活用されています。特に医療過疎地における医療アクセスへの向上や医療従事者の働き方改革には大きく寄与すると思われます。本講演は①DXの医療分野での活用(世界の先行例と日本の現状) ②急性期医療におけるDXの活用 ③慢性期医療におけるDXの活用 ④医療分野におけるDXの今後の展望と課題 に分けてお話させて頂こうと考えています。特に②と③は具体的な例を示して、その効果と経済性についても検討したいと思います。

医療分野でのDXの活用は他分野に比べて多くの障壁が存在します。法律が実際の医療現場に追いついていない事もその原因の一つです。しかし、DXが医療の均てん化に貢献する事は間違いなく、私も日々格闘しています。多くの市民に貢献できる医療システムの構築にはDXが必須です。その現状と課題について一緒に考えたいと思います。(医療分野のこぼれ話も混ぜながら進めたいと考えています。)

◎本講座

●開講日時 2022年11月24日(木)18時30分～20時

●講演テーマ 北海道の産業と経済
ー北海道の産業・経済を進化させる「ダイバーシティ経営」と「デジタル化・DX推進」ー

●講演者 本 昌子（株式会社NTTドコモ 執行役員 北海道支社長）

●講演者略歴

1990年NTT入社、移動体通信事業本部研究開発部勤務。1992年移動体通信事業本部が分社化、(株)NTTドコモへ転籍。その後、サービス開発部、モバイルコンピューティングビジネス部にてデータ通信系のアプリケーション開発(主に位置情報サービス、動画伝送システムなどの開発)に従事、神奈川支店にて法人SEの現場経験を経て、本社システムサービス部、ソリューションビジネス部にて法人系サービス開発に携わる。2014年人事ダイバーシティ推進室長、(株)ドコモ・プラスハーティ社取締役、2020年法人ビジネス戦略部長を歴任。2021年6月より現職。ドコモ北海道グループとして通信事業、スマートライフ事業を中心に全道を所掌。全道エリアの通信品質を磨き上げるとともに、地域のお客様の生活を豊かにする様々なサービスをご提供しています。

●講演概要

未来の日本を描く構想として「Society5.0」、「デジタル田園都市国家構想」が掲げられています。本講演では、これらの提言を地域としてどのように捉え、どのように地域課題に照らし合わせ、進化させていくのかをみなさんと一緒に考えます。

北海道における現状と課題を踏まえ、課題に向き合っていくための「ダイバーシティ経営」の考え方、また、カーボンニュートラルを目指すこれからの「新しい通信基盤技術(IWON、6G)」に関しても少し触れながら、各分野(例:観光、食、製造、医療など)、各地域における「デジタル化推進、DXの事例」をご紹介します。

◎本講座

●開講日時 2022年11月29日(火) 18時30分～20時

●講演テーマ “観光”の課題

●講演者 平本 健太 (北海道大学大学院経済学研究院 教授)

●講演者略歴

1987年北海道大学経済学部卒業、1991年北海道大学大学院経済学研究科経営学専攻博士後期課程中途退学。滋賀大学経済学部助教授、北海道大学大学院経済学研究科助教授などを経て、2008年より北海道大学大学院経済学研究科教授。著書に、『戦略マネジメントコース(第3巻、第4巻)』日本能率協会、1992(分担執筆)、『管理者のための戦略思考コース(第2巻)』産能大学、1995(共著)、『日本的経営の本流』PHP研究所、1997(分担執筆)、『情報システムと競争優位』白桃書房、2007(単著)、『戦略的協働の本質』有斐閣、2011(共編著)、『非営利法人制度改革の研究』北海道大学出版会、2022(共著)がある。

●講演概要

「コロナ以前」の観光と「ポスト・コロナ」の観光とでは、目指すべき姿が異なるはずです。すなわち、「コロナ以前」の観光では、多数のインバウンド観光客が訪れ、爆買いをし、その結果、オーバーツーリズムの弊害も指摘されてきました。「ポスト・コロナ」時代においては、観光振興と地域のくらしの質的向上を目指すとともに、数量(売上高)を志向する観光ビジネスから、付加価値(利益)を志向する観光ビジネスへのシフトが求められます。今回の講義では、「ポスト・コロナ」時代の観光について、いくつかの事例にもとづいてお話しします。

◎本講座【ワークショップ】地域型DX活用ビジネスの創出①②

- 開講日時 2023年2月11日(土) 14:00~17:00
(先着30名) 対面開催 13:50現地集合
- 開講内容 地域の課題を抽出し、それを解決するDX活用ビジネスのアイデアを創出
すべく、ワークショップを行います。
- 開催場所 「EZOHUB SAPPORO」
サツドラホールディングス株式会社/本社2階
札幌市東区北8条東4丁目1-20
<https://satudora-hd.co.jp/ezohubsapporo/>

札幌駅東口から徒歩11分
(サツドラ北8条店入り口左手階段より2階にお上がりください)
- ファシリテーター
藤原 健祐
(小樽商科大学ビジネススクール・准教授)
藤井 享
(北見工業大学工学部地域国際系長・教授)